

第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会（第24期・第2回）議事録

日時：平成30年（2018年）4月9日 10:30～13:00

場所：関西学院大学東京丸の内キャンパス テレビ会議室

（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10階）

出席者：亀田達也、亀本洋、木部暢子、古城佳子、佐藤岩夫、西尾チヅル、橋本伸也、本田由岐、松下佳代、溝端佐登史、宮崎恒二、岩尾政希（五十音順、敬称略）

欠席者：戸田山和久、藤原聖子、町村敬志、三成美保

参考人：今村直樹（熊本大学永青文庫研究センター准教授）

- 議題：1. 京都大学における人文・社会科学振興のための取り組み（松下佳代委員）
2. 熊本大学永青文庫研究センターの地域社会における活動と震災後の「史料レスキュー」の取り組み（今村直樹参考人）
3. その他（人文・社会科学振興に関する大学等でのシンポジウム等の開催状況について）

第一回議事要旨の確認を行ったのち、最初に橋本分科会委員長より「地方創生に資する大学改革に向けた中間報告」（平成29年5月22日 地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議）を回覧して内容紹介があった。

議題1. 京都大学における人文・社会科学振興のための取り組みについて

資料③および④に基づき、松下佳代委員より以下のような京都大学の取り組みに関する報告があった。

報告の主な内容は以下のとおりである。

- ・人文・社会科学教育検討ワーキンググループの報告書『人を見つめるちから×社会を動かすちから』。
- ・全学教育シンポジウムにおける（2017.9.8）パネルディスカッション「京都大学のこれから：人文社会学系からの提言」。
- ・「学際融合教育推進センター」による異分野連携・融合の試み。
- ・その他文理融合教育の推進及び京都大学学術研究支援室の活動。

その後、質疑応答と他大学での動向紹介を含めた議論が行われた。特に、文理融合をめぐる理系からの受け止めについて把握したいとの意向も示された。

議題2. 熊本大学永青文庫研究センターの地域社会における活動と震災後の「史料レスキュー」の取り組み（今村直樹参考人）

資料⑤および⑥に基づき、今村参考人より熊本大学永青文庫研究センターの取り組みに関する以下の諸点について報告があった。

- ・永青文庫センターの設立（2009年）および展開過程と細川家文書をはじめとした所蔵史料等についての紹介
- ・永青文庫センターの地域における活動および全国的な研究拠点形成をめざした取り組み
- ・熊本震災（2016年4月）後における「資料レスキュー」と地域社会

その後、質疑応答が行われた。主な論点は以下の通りである。

- 人文・社会科学が地域復興を通じてコミュニティを（再）構築する際の役割。そこでは地域の生活等に関する情報が不可欠で、人文・社会科学の蓄積が重要。
- 地域情報をどのように収集・管理するか。そのための各地域の大学における拠点形成の重要性。
- 文化財の有用性を地域、社会、全国に知らせる活動の必要性。関連して観光のあり方や文化財保護法改正問題、文書館のあり方、自治体との協力関係などの考慮すべき課題。
- 日本の文化を考える際の、「地域とは何か」を考えることの重要性。
- 地域に焦点をあてた研究機関が同時に、普遍的な世界レベルの観点を持つ必要性。

議題3. その他（人文・社会科学振興に関する大学等でのシンポジウム等の開催状況について）

- ・橋本分科会委員長より補足資料⑦に基づいて各大学での取り組み状況の紹介を行い、今後の分科会としての検討課題について紹介があった。

【配布資料】

- ①議事次第
- ②前回議事録
- ③「人文・社会科学の教育・研究の支援—京都大学の場合—」
- ④京都大学『人を見つめるちから×社会を動かすちから—京都大学人文・社会科学の教育—』京都大学企画情報部企画課、平成29年3月。
- ⑤「熊本大学永青文庫研究センターの地域社会における活動と震災後の「史料レスキュー」の取り組み」
- ⑥稲葉継葉・後藤典子編『第33回熊本大学附属図書館貴重資料展 近世熊本城の被災と修復・解説目録』熊本大学附属図書館、平成29年11月。
- ⑦「人文・社会科学振興に関する各大学等での取り組みをめぐって」